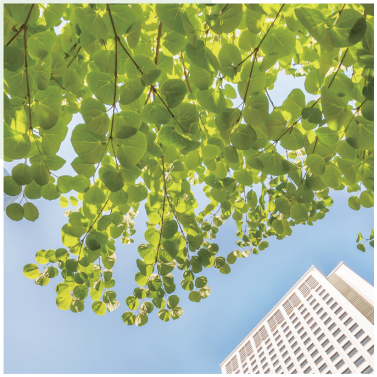
TOYO ELECTRIC CORPORATION



トップインタビュー

未来の姿を描くために。私たちは失敗を恐れず挑戦を続けます。

1

トピックス 4
セグメント別概況 5
連結決算概要 7
社員インタビュー 9
会社概要／株式状況 10

第85期 報告書

2023年 4 月 1 日から
2024年3月31日まで

電子の夢を創る
東洋電機株式会社

証券コード：6655

未来の姿を描くために。私たちは失敗を恐れず挑戦を続けます。

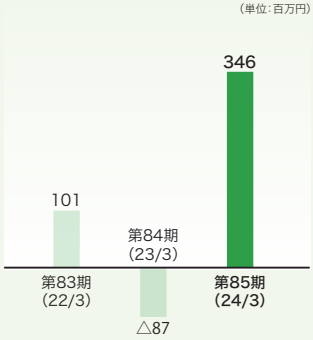
株主の皆様には日頃のご支援に心より感謝申し上げます。
第85期(2023年４月１日から2024年３月31日まで)を終了しましたので、ここに謹んでご報告をさせていただきます。
株主の皆様には、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役　社長執行役員　**松尾　昇光**

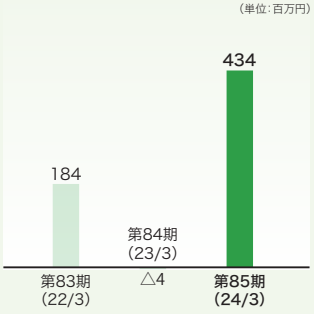
連結決算ハイライト

売上高

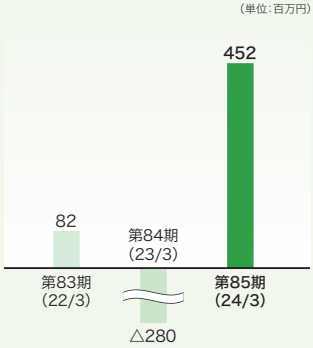
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



Q 1 回復基調が鮮明になってきました。この1年の経営環境にどのような変化が見られましたか。

コロナ禍の長いトンネルからようやく抜け出そうとしています。当期は全ての事業部門で売上げが前期を上回ったのをはじめ、原価率の抑制や販売管理費率の改善に努めたことで、利益面でも当初の計画を上回ることができました。この1年を振り返ると3つほど新しい動きが見られました。

1つ目は、電気機器業界において、将来をにらんだ設備投資の動きが顕著になったこと。デジタル化により事業変革を目指すDX(デジタルトランスフォーメーション)や、生成AI(人工知能)を活用し省人化・省力化につなげる動きが目覚ましく、半導体関連やデータセンター向け電源設備の増強に拍車が掛かりました。また、脱炭素の動きからCO_2の排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラルに向けた設備投資も着実に増えています。

2つ目は、コロナ禍によって深刻化していたサプライチェーンの混乱による部材不足が緩和されたこと。多くの部品・部材で価格が高騰する、納期が遅れる、などの影響が見られましたが、ようやく緩和されつつあります。この間、当社においては複数サプライヤーへの転換などを進め、サプライチェーンの最適化に努めてきたところです。

3つ目は、政府の指導もあり、部品・部材の値上がり分の価格転嫁や販売価格の見直しに一定の理解が進んだこと。中小企業においては適正な利益の確保につながるとともに、従業員の賃上げの原資となるものだけに一安心といったところです。デフレマインドからの脱却という意味ではまだ道半ばですが、社会的な理解が広がったことは一歩前進と言えます。

売上げ・利益ともコロナ禍以前の水準には及びませんが、従業員一同の頑張りもあり、業績は着実に上向いています。

Q 2 事業部門の動きは期待どおりだったでしょうか。まず、国内の動きからお聞かせください。

東洋電機、東洋電機ファシリティーサービス、東洋板金製造の3社からなる国内制御装置関連事業は、部品・資材の入手が改善されたことにより、売上げを大きく伸ばしました。原材料が高騰する中にあって、原価率の抑制や販売管理費率の改善にも力を入れ、当期は黒字転換しました。

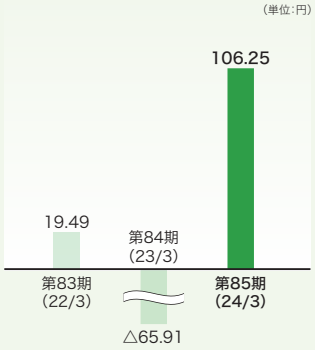
エンジニアリング部門では、監視制御装置分野、印刷制御装置分野、配電盤分野で回復基調が鮮明になりました。部品の入手が改善されたことも売上増に寄与しています。ただ、搬送制御装置分野だけは客先の偏りが改善できず、停滞を余儀なくされています。

機器部門では、半導体関連やカーボンニュートラルへの取り組みからお客様の設備投資が拡大し、センサ分野、空間光伝送装置分野、表示器分野の全てにおいて増収となりました。カーボンニュートラルに向けた動きから、ガスから電気への切り替えが進み、電力調整器が伸びています。今期は新製品を出す予定です。また、電子部品の需要増に対応するため、基板の実装機を更新しました。外注していた他部門の実装作業も内製化してキャッシュの改善につなげます。

変圧器部門では、データセンター向けや太陽光など再生可能エネルギー関連の設備投資が堅調に推移し、過去最高の売上げとなりました。資材が高止まりしている中で、利益幅も伸ばしています。今後は競争力を維持するため、海外の協力会社との連携も模索しています。

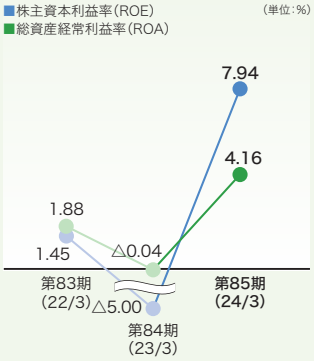
樹脂を取り扱う東洋樹脂は、自動車生産量に回復の兆しが見られ、当期は増収となっています。原料価格の高騰から業界の淘汰も始まっており、当社も他社との共同事業を検討しています。

1株当たり当期純利益

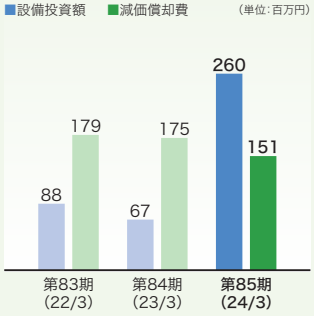


1株当たり純資産額(BPS)

株主資本利益率(ROE)/総資産経常利益率(ROA)



設備投資額/減価償却費



Q 3 海外子会社2社の動きは順調でしょうか。

中国の南京華洋電気有限公司、タイのThai Toyo Electric Co.,Ltd.の2社からなる海外制御装置関連事業は、前期比で増収増益となりました。

中国子会社では、中国国内の不動産市況の停滞により建設案件が減り、エレベータセンサが苦戦しています。一方、中国国内のEV関連部品工場や半導体工場の設備投資が活発で、受配電盤や制御盤の需要が伸び、好調を維持しています。一時は品薄が続いていた電子部品の供給網も改善され、売上高が増加。セグメント利益も伸びています。

タイ子会社は、タイ国内の市況が不安定なため伸び悩んでいる状況です。タイを拠点に、営業と開発が一体となって近隣の東南アジア諸国に向けて販路の拡大を目指しています。

Q 4 先頃、連結子会社2社の吸収合併を含むグループの組織替えと人事の異動を発表しました。どのような狙いがあるのでしょうか。

本年4月1日付で、連結子会社であった東洋電機ファシリティーサービスと東洋板金製造の2社を東洋電機に吸収合併しました。

東洋電機ファシリティーサービスは、配電盤、変圧器のサービス・メンテナンスを行い、東洋板金製造は、配電盤、変圧器などの板金加工・組立を行ってきました。ただ、グループ会社でありながら一体感が希薄であったため、東洋電機と連携して新しい動きをするということも少なかったのです。今回の統合により、たとえばお客様の工場設備に対するサービス・メンテナンスの業務にも、東洋電機として展開することが可能となり、収益拡大につながるはずです。

組織替えでは、エンジニアリング事業部管理部に板金課を新設するほか、ファシリティー工事部を新設して、その下に営業課、管理課、工事課を設置します。なお、今回の合併に合わせて従業員の賃金や人事評価、研修制度についても見直すものとしています。

また、この合併を機会に、東洋電機の各事業部においても組織の見直しを進めるとともに、それに伴う役職者の人事異動を行いました。

Q 5 人手不足が深刻化しています。持続的な成長には人材が欠かせません。今後の運営に向けた抱負と併せてお聞かせください。

従業員の成長なくして企業の成長はありません。コロナ禍が一段落したいま、“攻めの経営”に向けてグループ一丸となった人材の確保・育成を徹底します。そのためには、まず東洋電機グループの存在意義、社会的な役割を再点検し、従業員がやりがいや充実感を持って仕事と向き合える企業風土と職場づくりを目指さなければなりません。

当社はコロナ禍の中でR&Dセンターが中心となり、カーボンニュートラルに向けた取り組みを「脱炭素社会へのお手伝い」として、WEBやYouTubeで 発信してきました。この動きを営業面から支援するため、当社の取引先企業にて活躍されていた方に営業顧問になっていただき、大手企業のカーボンニュートラル推進部署への売り込みを進めてきましたが、お客様の声を聞く中で、単独の製品やサービスではなく、カスタマイズされたシステムとして提案してほしいという声が多く寄せられています。

これまでは3事業部それぞれがお客様に対して特性ある製品・サービスを行ってきましたが、これからは東洋電機として大きなテーマに立ち向かう必要があります。私は今後1年かけて、営業、開発、製造の3部門制に移行し、お客様に東洋電機グループの総合力で対応し、お客様の課題解決に寄与できる人材と技術の蓄積に備えたいと決意を新たにしています。

なお当期は、普通配当1株当たり10円に加え、1株当たり5円の特別配当を実施し、期末配当を15円といたしました。これにより年間配当は1株当たり25円となります。

株主の皆様には長期化するコロナ禍の中で多大なご心配をお掛けしましたが、引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。

TOPICS 1

OFC2024【米国サンディエゴ開催】に出展しました

Beyond 5G(6G)は、2030年代に導入される次世代の情報通信インフラであり、あらゆる産業や社会活動の基盤となることが見込まれています。5Gの特長である「高速・大容量」、「低遅延」、「多数同時接続」の機能を更に高度化することに加え、新たに「超低消費電力」、「通信カバレッジの拡張性」、「自律性」、「超安全・信頼性」などの機能の実現が期待されています。

当社でもBeyond 5Gの実現に向けて研究開発を行っており、3月26日～28日に米国サンディエゴのコンベンションセンターで開催された世界最大の光通信展示会「OFC 2024」において、40Gbit/s伝送を実現した超高速空間光伝送装置Free Space Optics(FSO)を展示しました。本装置は、国立研究開発法人 情報通信研究機構(以下、NICT)から委託された研究(JPJ012368C)でもあります。展示期間中、ブースには約300名にご来場、意見交換などをさせていただきました。

https://www.toyo-elec.co.jp/news/ofc2024/

また、展示会と同時に開催された学会では、NICTとの共著論文「40-Gbit/s Mobile FSO With High-Speed Beam Stabilizer and 2D-PDA-Based Diversity Receiver for Support Robots(和訳:サポートロボット用の高速ビーム安定化機能と2次元PDアレイベースの複数受信器を備えた40Gbit/sモバイルFSO)」を発表いたしました。

今後も皆様の生活に役立つ製品の研究開発を行ってまいります。

TOPICS 2

連結子会社2社を吸収合併しました

当社グループの競争力強化と事業運営のさらなる効率化を目的として、連結子会社の東洋電機ファシリティーサービス株式会社および東洋板金製造株式会社を2024年4月1日付で吸収合併(簡易合併)しました。

TOPICS 3

東京営業所を移転しました

設備の老朽化等により、当社東京営業所をこれまでの千代田区内神田から同区神田猿楽町へ2024年4月22日に移転しました。

これを機に所員一同、一層業務に精励し、お客様のご期待にお応えできるよう努力してまいります。

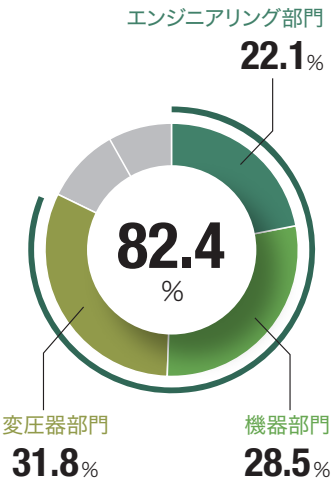
1. 国内制御装置関連事業

売上高 **7,249** 百万円

前年同期比 **16.4**%増

国内制御装置関連事業は、当社グループの中核事業として、日本国内を中心に事業展開をしており、監視制御装置、配電盤、変圧器、センサ、ソリューション向け装置および表示器の製造・販売を行っております。当事業を構成するエンジニアリング部門、機器部門、変圧器部門の3部門全てにおいて売上高は増収となり、売上高は7,249百万円（前年同期比16.4%増）となりました。

【構成比】



エンジニアリング部門

売上高 **1,943** 百万円　前年同期比 **36.2**%増

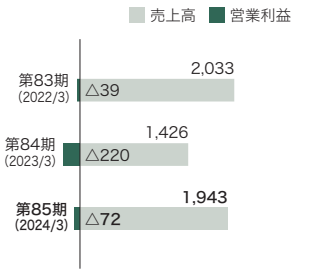
エンジニアリング部門の事業は、業種業界ごとに異なる制御システムを提供しております。当事業の内、搬送制御装置分野をはじめ全ての分野において、部品の入手性が改善されたことにより、売上高は1,943百万円（前年同期比36.2%増）となりました。

主要製品

- オンデマンドフォーム印刷機電装品
- インテリジェント多機能リレー(IPR)
- 宛名紙印刷搭載機

宛名紙印刷搭載機

売上高・営業利益推移（単位：百万円）



機器部門

売上高 **2,507** 百万円　前年同期比 **8.7**%増

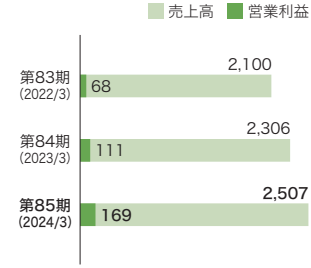
機器部門の事業は、光技術を応用した様々な産業設備用機器を自社開発し、自社製品として提供しております。当事業の内、顧客における半導体関連、カーボンニュートラルへの取り組みによる設備投資の拡大などにより伸長し、売上高は2,507百万円（前年同期比8.7%増）となりました。

主要製品

- 空間光伝送装置
- エレベータ・エスカレータ関連機器

空間光伝送装置

売上高・営業利益推移（単位：百万円）



変圧器部門

売上高 **2,798** 百万円　前年同期比 **12.2**%増

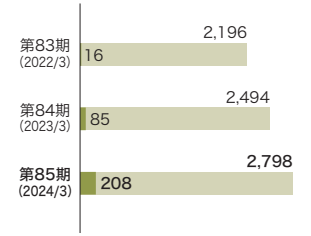
変圧器部門の事業は、当社が設立以来営んでおり、受配電用変圧器から機械設備用変圧器などを提供しております。当事業は、データセンター向けや再生可能エネルギー関連の設備投資が堅調に推移したことにより、売上高は2,798百万円（前年同期比12.2%増）となりました。

主要製品

- 乾式変圧器
- モールド変圧器
- 耐雷変圧器
- 始動リアクトル

乾式変圧器
TKH4シリーズ

売上高・営業利益推移（単位：百万円）



2. 海外制御装置関連事業

売上高 **883** 百万円

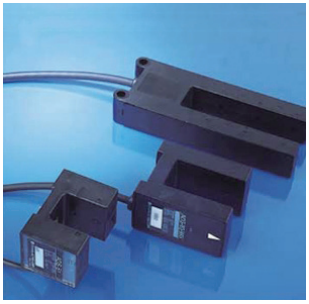
前年同期比 **17.8**%増

海外制御装置関連事業は、当社グループの海外企業2社が事業を展開しており、中国南京市にある南京華洋電気有限公司は、中国国内向けの盤関連製品の製造販売や中国国内やタイ王国などに向けたエレベータ関連センサの製造販売を行っております。また、タイ王国にあるThai Toyo Electric Co.,Ltd.は、南京華洋電気有限公司から輸入したエレベータ関連センサの組立・検査・販売を行っております。当事業は、顧客におけるEV関連部品工場や半導体工場の設備投資が好調であることや、電子部品の供給網が改善されたことなどにより、売上高は883百万円（前年同期比17.8%増）となりました。

主要製品

- 盤関連製品
  （南京華洋電気有限公司のみ）
  - 高圧受配電盤
  - コントロールセンタ
  - PLC応用制御盤

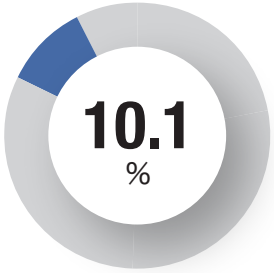
C型コントロールセンタ



- エレベータ関連製品
  （南京華洋電気有限公司と
  Thai Toyo Electric Co., Ltd.）
  - マルチビームセンサ
  - かご位置確認用センサ

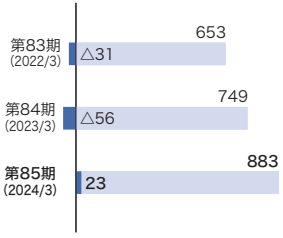
エレベータセンサ
「かご位置確認用センサ」

構成比



売上高・営業利益推移

（単位：百万円）



3. 樹脂関連事業

売上高 **660** 百万円

前年同期比 **12.0**%増

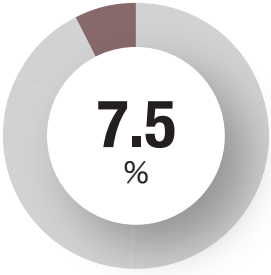
樹脂関連事業は、当社グループの東洋樹脂株式会社が展開している樹脂リサイクル事業です。当事業は、自動車生産量に回復の兆しが見られ、当部門の売上高は660百万円（前年同期比12.0%増）となりました。

主要製品

- 廃プラスチックのリサイクル
- リサイクル樹脂ペレットの生産・販売
- プラスチックのコンパウンド受託加工
- 樹脂パウダーの生産

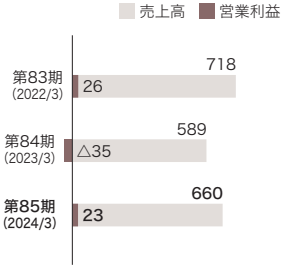
樹脂ペレット

構成比



売上高・営業利益推移

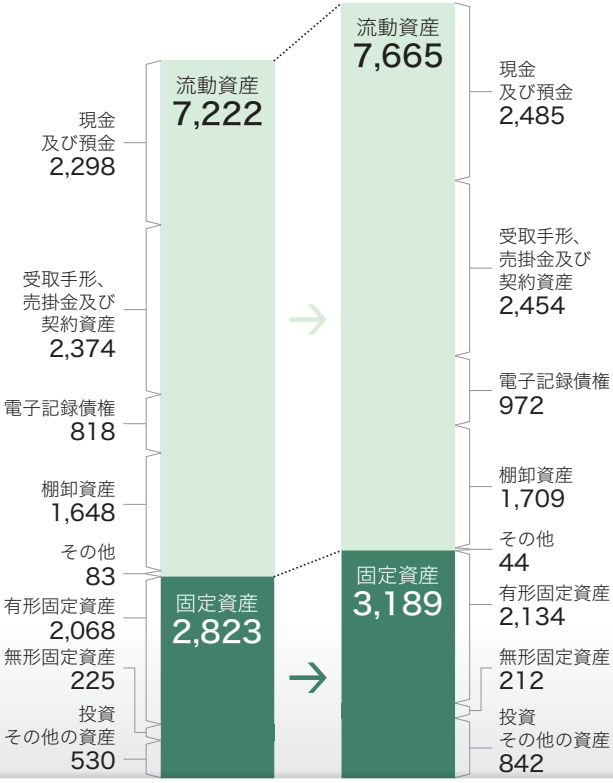
（単位：百万円）



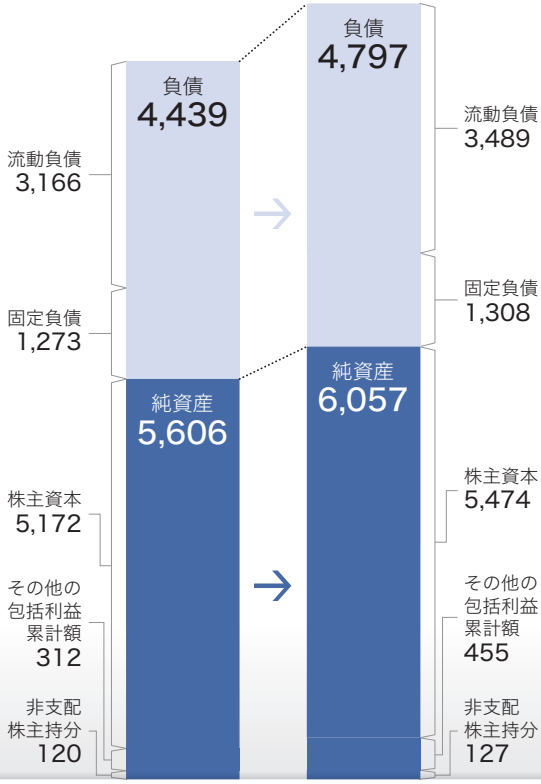
連結貸借対照表の概要

（単位:百万円）

前期（2023年3月31日現在）	当期（2024年3月31日現在）
資産合計 10,045	資産合計 10,855



前期（2023年3月31日現在）	当期（2024年3月31日現在）
負債・純資産合計 10,045	負債・純資産合計 10,855

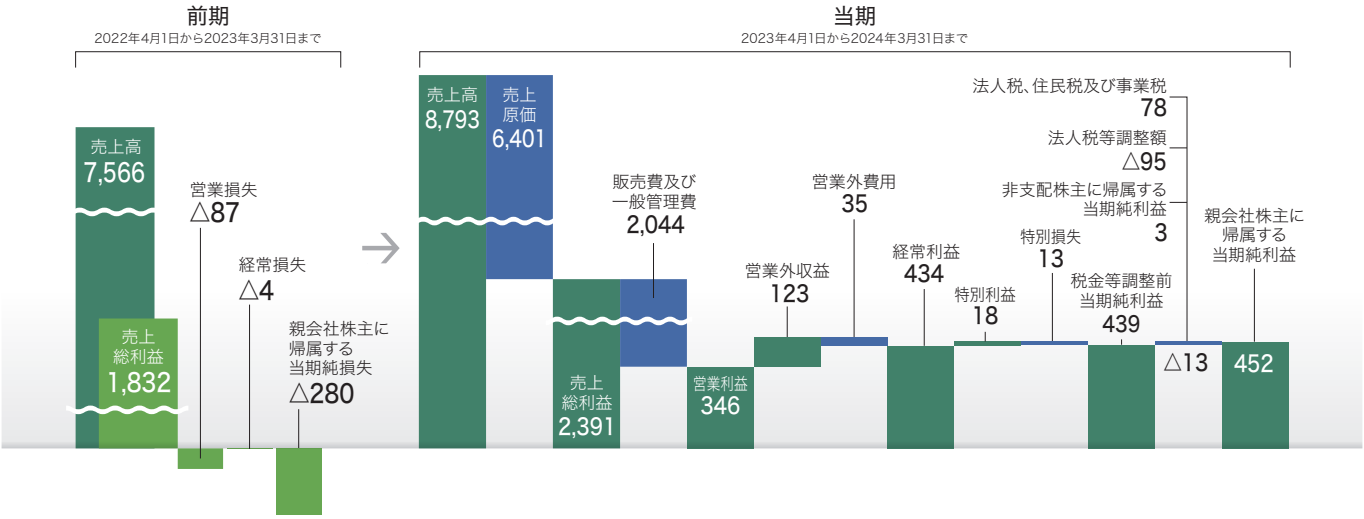


POINT

総資産は現金及び預金の増加や電子記録債権の増加などにより前期末比809百万円増加し、負債は電子記録債務の増加やリース債務の増加などにより前期末比358百万円増加しました。純資産は利益剰余金の増加などにより前期末比450百万円増加しました。

連結損益計算書の概要

（単位:百万円）

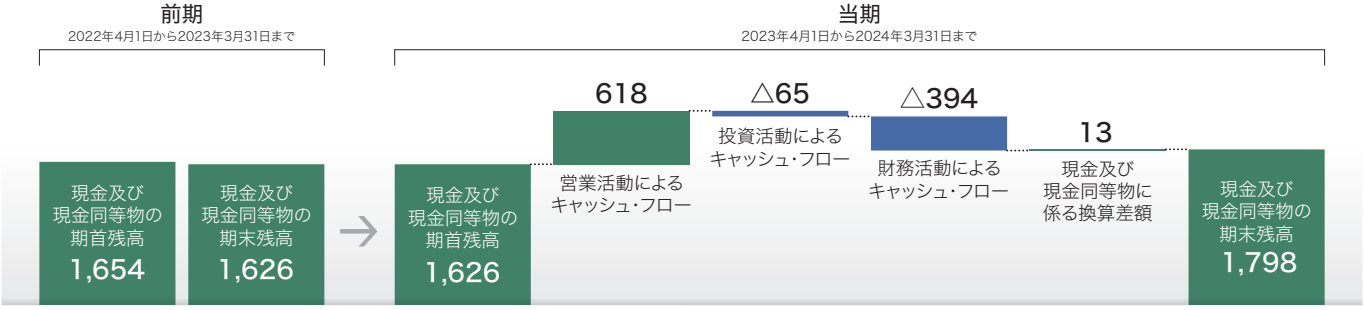


POINT

当期は、国内制御装置関連事業、海外制御装置関連事業、樹脂関連事業の全ての事業において増収となりました。当社グループ全体の利益面では、販売価格の適正化や原価率の抑制に努めたことや、生産性を意識した業務改善活動を継続的に行った結果、販管費率の改善などにより、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は増益となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書の概要

（単位:百万円）



POINT

当期の現金及び現金同等物は、前期末に比べ171百万円増加し1,798百万円となりました。営業活動の結果得られた資金は、税金等調整前当期純利益に加え減価償却費の増加などにより618百万円となりました。投資活動の結果使用した資金は、有形固定資産の取得による支出などにより65百万円となりました。財務活動の結果使用した資金は、長期借入金の返済による支出などにより394百万円となりました。

売り手よし、買い手よしで信頼できる購買を

機器事業部
製造部 資材課課長
上沼（うえぬま） 慎也（しんや）

大手2社で経験した購買業務

大手電気機器メーカーで車載用電装部品の購買を担ってきました。ところが突然、その事業部門だけが他の大手企業に事業譲渡されることに。どちらも大手ながら社風は真逆で、購買のあり方も大きく変わりました。「このまま仕事を続けていいのだろうか」。そんな迷いの最中に早期退職の提案があり、応じることにしました。

仕事をするなら「購買」だと考えていたら、東洋電機が声を掛けてくれました。2度の面接で「この会社なら自分の思いを聞いてもらえる、やりたいことができる」と入社を決めました。

私が考える購買のあり方

機器事業部の資材課に配属されて9カ月。3年続いたコロナ禍でどの企業もサプライチェーンが混乱し、部品・資材が高騰しています。私たちの部署が取り扱うエレベータセンサも部品・部材が入らない、価格が高騰する、納期が遅れる、が常態化していました。こちらは一般市場の流通品の中から代替品を見つけることで何とか対処できました。

購買業務というと、「一律〇%値引き」といった交渉を想定するかもしれません。しかし、そんな交渉では長続きしません。そんな相手なら最初から〇%上乗せして見積もってくる売り手だってあるからです。

価格交渉では2つの視点が必要です。1つは外部の要因で部品・資材が高騰しているケース。どこかで反映しなければならないものです。もう1つは生産工程の改善や、大きな数量を発注することで価格を引き下げられるもの。購買の現場では、この2つを分けずに交渉するケースも見受けますが、乱暴すぎると思います。

購買業務は売り手と買い手の双方に利益が出て、納得できるからこそ信頼が生まれ、長いつきあいができるのです。

誰もが成長を実感できる職場を

私のチームは倉庫係のパートさんを含めて7名です。良いことも悪いこともざっくばらんに話せるチームを目指しています。私の経験では、仕事にプレッシャーは付き物。逆立ちしてもできない仕事では困りますが、頑張れば達成できる仕事なら挑戦してほしいと思っています。それができたときの達成感、充実感は何物にも代えられない自信と高揚感につながります。先を見据えた目標をおのおのが設定し、それを達成することで成長を実感させてくれます。

仲間の皆さんが気づいたこと、やりたいことがあれば、時間を割いてでもチャレンジする機会・場を設けたいと考えています。

若いときの私はインドアのスポーツやバイクに凝っていました。40代になったいまは、体力も落ちてゴルフが唯一の趣味です。コースに出れば適度に歩けて、ストレスの発散もできます。職場の仲間を誘って一緒にゴルフに行こうと話をしています。

会社の概況

（2024年3月31日現在）

商号	東洋電機株式会社
設立	1947年（昭和22年）7月
資本金	10億3,708万円
本社・春日井工場	〒486-8585 愛知県春日井市味美町2-156
神屋工場	〒480-0393 愛知県春日井市神屋町字引沢1-39
営業所	東京、名古屋、大阪
関係会社	東洋樹脂株式会社（愛知県小牧市）
	南京華洋電気有限公司 （中華人民共和国江蘇省南京市）
	Thai Toyo Electric Co., Ltd. （タイ王国チョンブリー県）
主要取引銀行	商工中金、百五銀行、三井住友銀行、名古屋銀行
従業員数	個別：189名　連結：383名

株式の概況

（2024年3月31日現在）

発行可能株式総数	9,000,000株（普通株式）
発行済株式の総数	4,694,475株（自己株式508,401株を含む）
株主数	2,698名

大株主

（2024年3月31日現在）

株主名	持株数	持株比率
有限会社城西	430千株	10.28%
東洋電機取引先持株会	325千株	7.77%
株式会社商工組合中央金庫	232千株	5.55%
株式会社百五銀行	195千株	4.65%
東洋電機従業員持株会	183千株	4.38%
松尾隆徳	173千株	4.13%
松尾昇光	145千株	3.46%
日本生命保険相互会社	125千株	2.98%
三浦陽子	111千株	2.66%
第一生命保険株式会社	87千株	2.09%

（注）持株比率については、自己株式（508,401株）を控除して算出しております。

役員

（2024年6月21日現在）

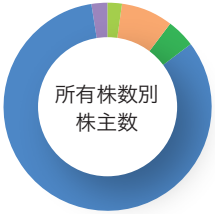
代表取締役 社長執行役員	松尾昇光
取締役 常務執行役員	井澤宏
取締役 常務執行役員	加賀美孝
取締役（監査等委員）	加藤茂男
取締役（監査等委員）	葛谷昌浩
取締役（監査等委員）	井上誠

（注）取締役 葛谷昌浩氏および井上誠氏は、社外取締役であります。

株主分布図

（2024年3月31日現在）

金融機関	17.44%
金融商品取引業者	0.05%
その他法人	21.28%
個人・その他	61.23%



100単元以上	2.38%
10単元以上	8.15%
5単元以上	4.30%
1単元以上	82.80%
1単元未満	2.37%

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 〒183-0044　東京都府中市日鋼町1-1　TEL 0120-232-711（通話無料） 郵送先　〒137-8081　新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
上場取引所	株式会社名古屋証券取引所　メイン市場（コード6655）
公告方法	電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
公告のホームページアドレス	https://www.toyo-elec.co.jp/

ご注意

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内

製品情報

事業紹介

IR情報

最新の製品情報やIR情報などを分かりやすく掲載しています。

https://www.toyo-elec.co.jp/　東洋電機　検索

お問合せ先

東洋電機株式会社

〒486-8585　愛知県春日井市味美町2-156
TEL.0568-31-4191　FAX.0568-31-8096

この報告書は植物油インキを使用しております

VEGETABLE OIL INK